

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月5日現在

機関番号：34315

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12815

研究課題名(和文)近代中国の諸宗教に対するキリスト教の影響の比較研究

研究課題名(英文)A Comparison of Christian Influences on Religion in Modern China

研究代表者

住家 正芳 (Sumika, Masayoshi)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：60384004

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代中国でもっとも長命の英文雑誌であったChinese Recorder誌(The Chinese Recorder and Missionary Journal、中国名『教務雑誌』)を分析の対象とすることによって、19世紀後半から20世紀前半にかけて、キリスト教が近代中国の諸宗教に及ぼした影響を明らかにしようとしたものである。具体的には、Chinese Recorderの記事を分析することで、キリスト教宣教師たちが中国の諸宗教をどのように理解したのか、その際、彼らが前提とした「宗教」理解はどのようなものであったのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近代中国における宗教概念の歴史的形成過程を、キリスト教と儒教や道教、中国仏教などとの宗教間の具体的な相互関係から明らかにすることによって、宗教研究における宗教概念の議論に新たな事例を提供するものとしての意義を有する。また、宗教間の相互理解あるいは相互無理解による行き違いや、ナショナリズムと宗教との関連などをめぐる一般の議論に、歴史的事例からのより冷静な観点を提供するものとしての意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to clarify the influence that Christianity has had on other religious traditions in China from the late 19th century to the early 20th century. It analyzes articles published in the mission journal Chinese Recorder (The Chinese Recorder and Missionary Journal), and investigates how Christian missionaries saw Confucianism, Daoism, Chinese Buddhism, and other religions of China. By doing so, this study elucidates the overall view Christian missionaries had of religion in China as well as their general understanding of what does and does not constitute "religion".

研究分野：宗教学

キーワード：宗教 近代中国 キリスト教宣教師 Chinese Recorder 教務雑誌

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

東アジアの近代において、キリスト教宣教師が重要な役割を果たしたことは言うまでもない。特に中国においては、キリスト教と中国知識人との邂逅から生じた太平天国や、宣教師と庶民との軋轢から発した1900年の義和団事件など、知識人のみならず一般庶民をも巻き込む大動乱が生じている。そのように重要な存在であったキリスト教宣教師たちの情報誌であったChinese Recorderは1868年以降1942年まで発行され、近代中国でもっとも長く刊行され続けた雑誌であった。Chinese Recorderの重要性はつとに指摘されてきたが、先行研究において十分に活用されてきたとは言い難い状況であった。

### 2. 研究の目的

本研究は、Chinese Recorderを主要な研究対象として、キリスト教宣教師たちが中国の諸宗教をどのように理解したのか、その際、彼らが前提とした「宗教」理解はどのようなものであったのかを明らかにすることを目的とした。こうした作業によって、近代中国における「宗教」概念の定着や諸宗教の「宗教」としての近代的な編成過程の一端を明らかにしようとしたものである。

### 3. 研究の方法

Chinese Recorderは長期にわたって刊行されたものであり、本研究においては、これを3つの時期に分けて研究した。すなわち、創刊から19世紀終わりまで、20世紀初頭から1922年前後まで、その後から1942年の終刊に至るまでの3期に分けた。そして、それぞれの時期についてChinese Recorderの記事を選定し、分析した。住家正芳(研究代表者)が儒教および知識人層、鈴木健郎(研究分担者)が道教、エリック・シッケタンツ(研究協力者)が仏教、宮田義矢(研究協力者)が民間信仰および秘密結社に関する記事を担当して分析した。研究期間の後半では、宮田が仏教についての記事分析も担当した。

### 4. 研究成果

Chinese Recorderの主な読者は中国で活動するプロテスタントの宣教師たちであり、エキュメニズムによる宗派超越的な方向性を出版方針として、宗派を問わず講読された。発行部数はずっとも多い時でも3000部に過ぎなかったが、各地の宣教拠点で複数の人が読んだと想定されることから、読者数はそれよりもはるかに多かったと考えられる。また、最初期は福建、その後は上海で出版されたが、欧米でも配布されたことから、かなりの数の部数がアメリカに存在する。

本研究が史料として使用した版は、全期間を収録したGale Cengage LearningのArchives Unboundに収められた電子コレクションである。また、2012年に製本出版された汪靈光、査読時傑(主編)による全75冊の版(臺大出版中心、基督教與中國研究中心による発行)も適宜参照した。

本研究は、このChinese Recorderの記事を分析することで、中国で活動した宣教師たちが自らの直面した儒教、道教、仏教、民間信仰といった中国の諸宗教をどのように理解したのかを具体的に明らかにした。そして、そこに見られるキリスト教を基準とした宗教概念がどのような構成要素を持つものであったのか、そうした宗教概念からどのような他宗教理解が論理づけられたのかを明らかにした。

そこで明らかになったのは、キリスト教宣教師たちの中には儒教や道教については固定的な見方が根強く存在し続けた一方で、仏教についての評価は大きな揺れ幅を持っていたこと、同時期の西欧およびアメリカにおいて広がった仏教理解が強く意識されていたことなどである。

キリスト教宣教師たちは当然のことながらキリスト教をもとにして「宗教」を理解しており、聖書的な要素をどれだけ中国の諸宗教に見出すことができるか、という観点から中国宗教をとらえ、判断していた。さらに、本研究が研究対象としたのはプロテスタントの宣教師であったことから、先行研究で指摘されているようなカトリック批判の論理を援用した中国宗教批判も見られた。

しかし、キリスト教宣教師たちの中国宗教理解は必ずしも偏見のみに満ちていたわけではなく、寺院や道観なども精力的に見て回っていたことがChinese Recorderの記事から確認された。

本研究は、近代中国における宗教概念の歴史的な形成過程を、キリスト教と儒教や道教、中国仏教などの宗教間の具体的な相互関係から明らかにすることによって、宗教研究における宗教概念の議論に新たな事例を提供するものとしての意義を有するものである。また、宗教間の相互理解あるいは相互無理解による行き違いや、ナショナリズムと宗教との関連などをめぐる一般の議論に、歴史的な事例からのより冷静な観点を提供するものでもあることを意識した。

### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

SCHICKETANZ, Erik, 2017, "Narratives of Buddhist decline and the concept of the sect (zong) in modern Chinese Buddhist thought," Studies in Chinese Religions, no.3, pp.281-300. (査読有)

DOI:10.1080/23729988.2017.1392197

SUMIKA, Masayoshi, 2016, "Behind the Mask of the Secular," Journal of Religion In Japan, no.5, pp.153-175. (査読有)

DOI:10.1163/22118349-00502005

SUMIKA, Masayoshi, 2016, "Nationalism, Religion, and Social Darwinism: Nation and Religion in the Works of Kato Genchi and Liang Qichao," Religious Studies in Japan, no.3, pp.21-39. (査読なし)

オープンアクセス

〔学会発表〕(計0件)

なし

〔図書〕(計1件)

エリック・シッケタンツ、法藏館、『墮落と復興の近代中国仏教:日本仏教との邂逅とその歴史像の構築』、2016年、388

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 鈴木 健郎

ローマ字氏名: Suzuki, Takeo

所属研究機関名: 専修大学

部局名: 商学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 40439518

(2)研究協力者

研究協力者氏名：宮田 義矢

ローマ字氏名：Miyata, Yoshiya

研究協力者氏名：エリック・シッケタンツ

ローマ字氏名：SCHICKETANZ, Erik

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。